# セミナー開催情報

ＮＰＯ法人セフティマネジメント協会

取説はなぜ読む気にならないのか？

## 「伝わる取説」の作り方講座【実践編】

当日先着順３社　無料相談会　付き

## ■開催概要

| | |
|---|---|
| ○開催日時 | **2013年11月27日（水）　10:00～15:30 （受付 9:45）** |
| | **※ 15:40 から事前予約の限定 3 社に対して「取説」無料相談会（1 社 10 分程度）。先着順となります。 必要に応じて貴社の「取説」をご持参下さい。** |
| ○場　所 | 機械工具会館 3F 会議室　東京都港区芝 5-14-15　TEL: 03-3451-5553<br>http://www.k-kaikan.co.jp/access.html |
| ○参加費用 | 一般参加企業　1 名／14,000 円　　協会会員　1 名／10,000 円 |
| ○主　催 | NPO セフティマネジメント協会　株式会社キャプテン |
| ○申込及び支払方法 | 参加申込書を、セフティマネジメント協会事務局へ FAX にてお申し込みください。<br>お申込みいただいた方には、事前に請求書と受講票を送付しますので、指定の口座へお振込みください。<br>*振込手数料は、貴社にてご負担ください。また、「振込金受取書」を領収書に代えさせていただきます。 |
| ○定　員 | 30名（申込み順） |
| ○お問合せ先 | NPO セフティマネジメント協会　（担当：白田・高盛）<br>TEL：03-5614-4752　FAX：03-5614-4477 |

申込日 2013 年　　月　　日

| | |
|---|---|
| **参加申込書** | FAX： ０３－５６１４－４４７７<br>特定非営利活動法人 セフティマネジメント協会<br>事務局（担当：白田・高盛） 電話:03-5614-4752<br>http://www.npo-safety.org |
| ■　無料相談を希望する（当日 先着 3 社）　希望者は チェック下さい⇒　☐ | |
| 企業・団体名： | |
| 住所：〒 | |
| TEL： | FAX： |
| 参加者名： | 役職・部署： |
| E-mail：　　　　　＠ | |
| 参加者名： | 役職・部署： |
| E-mail：　　　　　＠ | |

申込締切日：2013 年 11 月 22 日（金）

# セミナープログラム

ＮＰＯ法人セフティマネジメント協会

取説はなぜ読む気にならないのか？

## 「伝わる取説」の作り方講座【実践編】

主催：ＮＰＯセフティマネジメント協会　株式会社 キャプテン　http://www.npo-safety.org

10:00 開会の挨拶

【第一章】
取説はなぜ分かりにくくなるのか

1. 取説の役割ってナンだろう
2. 製品安全対策の考え方
3. 日本における「伝える技術」
4. ユーザー中心設計を目指して

→日本人は分かりやすく伝える技術を学ぶ機会がない

【第二章】
取説を作る前にしておくこと

1. 情報をしっかりと収集する
2. 取説のコンセプトや制作方針を企画する
3. 取説の記載内容を決定する

→段取り八分！ 設計図なくば良い製品(取説)は作れない

【第三章】
読み手はどうやって理解しているのか

1. コミュニケーションの原理原則を知ろう
2. メンタルモデルとは
3. メンタルモデルに配慮した情報の出し方

→人はいとも簡単に誤解する。認知メカニズムに配慮した情報伝達のコツを学ぶ

お昼休憩 12 時 00 分～13 時 00 分(1 時間)

【第四章】
伝える技術！伝わる表現！

1. テクニカルライティングとは
2. わかる、伝わる、文章の書き方
3. 理解を助ける、ビジュアル表現

→これで伝わる！テクニカルライティングの技術を学ぶ

【第五章】
注意・警告文でリスクヘッジ

1. なぜ注意・警告文がいるのか
2. 危険を伝える、注意・警告文の書き方

→残留リスクは指示警告で伝えて、ユーザーの安全を守る

15:10～15:30 質疑応答

■個別無料相談(要事前予約／1 社 10 分程度) 15:40 分～

## 講師プロフィール

**山口　純治　氏**　アドバイザー　株式会社ダイテック

製品マニュアル、商品プロモーション、ブランディング、販売店や社員トレーニングなど、あらゆる情報伝達の問題を改善するアドバイザーとして幅広く活躍。各種セミナー、トレーニング、コンサルティングサービスなどを数百社の企業に提供している。

- マニュアル制作の専門会社である株式会社ダイテックにて、約 20 年にわたり各社製品のパーツカタログやマニュアルなどの技術資料制作およびその指導に携わる。
- 2003 年に横浜オフィスの責任者となり関東での事業を拡大するとともに、マニュアル診断事業を立ち上げ、さまざまな業界のメーカーに技術資料のコンサルティングを提供する。その後、自動車事業部の事業部長に就任し、横浜・東京・広島にある 4 つのドキュメントセンターを統括。
- 2009 年から 2011 年まで、富士重工業株式会社と株式会社大興（ダイテックの親会社）が出資して設立したマニュアル制作会社、スバル・インテリジェント・サービス株式会社に出向。「マニュアル改善」のセミナー講師、コンサルテーション、伝わるマニュアルの啓発活動を推進した。

セミナー情報

# そんな書き方では伝わりません。
# そろそろ、わかりにくい説明をやめませんか？

取説はなぜ読む気にならないのか？

## 「伝わる取説」の作り方講座【実践編】

### 取説のグローバルスタンダード

PL 法では、製品の欠陥によって損害が生じた場合の損害賠償責任について定めています。製品の欠陥には取扱説明書の表示不備が含まれ、そのためか、製品の取扱説明書（取説）は、とりわけ企業のディフェンスツールとして位置づけられる傾向があります。
しかし、グローバルスタンダードでは、製品のリスク低減方策は、第一に安全な製品を設計することとされており、取扱説明書などへの表示によるリスク低減方策は、最後の手段となっています。
つまり、リスクがあれば取扱説明書などへの表示すればよい、というわけではありません。

### 「伝わらない」リスクの大きさ

また、「わかりやすく伝える技術」を学ぶ機会が少ない日本では、わかりやすい取説を作ろうと努力しても、わかりにくくなりがちです。
設計段階で取り除けない製品の危険については、取扱説明書や安全ラベルなどの表示でユーザーに伝えなければなりませんが、ユーザーが、「やるべきこと」や「してはいけないこと」を正しく理解できなければ、ユーザーは危険にさらされることになります。したがって、「わかりやすさ」というのは、ユーザーの安全に大きく関係しているといえます。「わかりやすく伝える技術」を身に付けることが、リスクマネジメントの一環として求められるのではないでしょうか。

### セミナーのご案内

当協会は、1999 年 11 月に任意団体として設立して以来、危機管理、知的所有権、PL 予防対策など、わが国のリスクマネジメントのあり方の研究や提案を行ってまいりました。

このセミナーでは、製品事故や PL 訴訟リスクの軽減のために、製品の取扱説明書が「いかにあるべきか」、をさまざまな角度で解説しています。
人の脳が、ものごとをどのように理解するのか、その仕組みを知った上で、情報伝達のコツ、理解しやすい情報の出し方、わかりやすい文章の書き方、などをお伝えします。
数多くの企業のマニュアルを診断し、指導してきた経験豊富な講師が、「伝える」ノウハウを惜しみなく開示する、実践的なセミナーとなっています。

NPO 法人セフティマネジメント協会